

# 科学技術庁も認めた 超能力研究団体

## 「国際総合研究機構（I.R.）」

### 瞑想がキュウリの細胞を変化させた!!

#### 放射線医学の雄 超能力の研究に挑戦

超能力は科学で解明するといふができますのか？  
この困難な課題に正面から取り組

んでいる科学者たちがいる。国際総合研究機構（I.R.）の山本幹男博士が率いる研究チームの科学者たちだ。

山本幹男博士は、異色の経歴を持つ。山本氏が超能力研究に携わるようになったのは、今からおよそ20年前のこと。当時、山本は科学技術庁の放射線医学総合研究所に勤務し、放射線の医学利用などの研究に携わっていた。

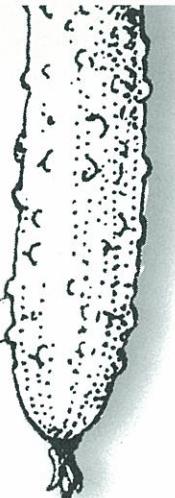
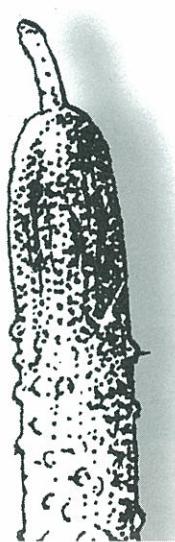
1970年、山本らは人間の脳の活動を画像化する装置であるPET（Positron Emission Tomography）の開発に日本で初めて成功。その独創的な方式で特許の取得に成功している。

またX線CT画像から肺がんを自動で検出する方法の開発など、数々の業績を上げ、科学者としての地位



なども名を連ね、後に首相や議員を多く輩出する。この会合では毎月一回、議員会館の中で会合を開き、第一回の講師は山本氏自身が勤めた。この会合はすでに150回以上を数え、現在も継続され、一般からの参加者も迎えられている。

やがて2000年を迎えると、



▲実験においてフラクタルピラミッドの中での瞑想はすべて坂本政道氏。修道士（応用科学）。プロジェクト・リーダーを務めた。モンロー研究所レジデンシャル・アカデミックリサーチャー、アカデミー代表取締役。元ソニーエンジニア。

アメリカや日本ばかりではなく、日本でも国家予算で超能力研究が行われていた。そして、科技庁のゆどで超能力研究に携わっていた科学者たちが、ついに！ 生体細胞に対する“非接触”的影響を疑いを排して実証した。科学と超能力が最も接近した歴史的実験と、研究団体の実態に迫る！

く20世紀の科学・技術は、主として意識・精神・心から独立した物質世界を対象としたパラダイム（枠組）を築き、その範囲内での成果を収めてまいりました。

しかし、20世紀のパラダイムの成果あるものはその延長にはいても説明できそうにない現象が、意識・精神

・心が関与する分野などでは現実に存在している可能性が指摘され

ております。

本国際学会は、国際的英知を結集し、その未知な現象を科学的実証に基づき明確化させ、その特性と、原理の解明をめざし、20世紀の科学・技術の新パラダイムを切り開き、科学・技術の革新については人類の平和な文化と福祉の向上に寄与することを趣意いたします。

#### 国家予算で公式に 研究される超能力の謎

実際に見事な声明である。超能力の解明に乗り出した科学者たちの本気度と、その志の高さが文章のはじめから感じられる。

また山本氏はじめの学会に対応する超党派の国会議員連盟「人間サイエンスの会」も立ち上げた。この設立

を不動のものとした。

しかし、その一方で、人間の持つ潜在能力（つまり、超能力）の可能性に醉目した氏は、独自の研究を行う道につながる。もちろん、本来の業務として離れた研究ではあるが、山本氏は腰するところなく、堂々と自分の興味ある研究に打ち込んでいった。

すると20年後の1995年、なんと山本氏の研究に5年間で9千万円の予算が与えられた。国立研究所の中で超能力研究に国家予算が投じられるとはなかったのである。また懐疑的になれるべきではない。

山本氏はすぐに潜在能力専用の国際学会を設立。国際生命情報科学会（I.S.I.C.）がスタートした。

国際生命情報科学会の設立趣意書には、有力な議員や当時の科学技術庁の局長とともに大臣経験者

だけだったのではないか。

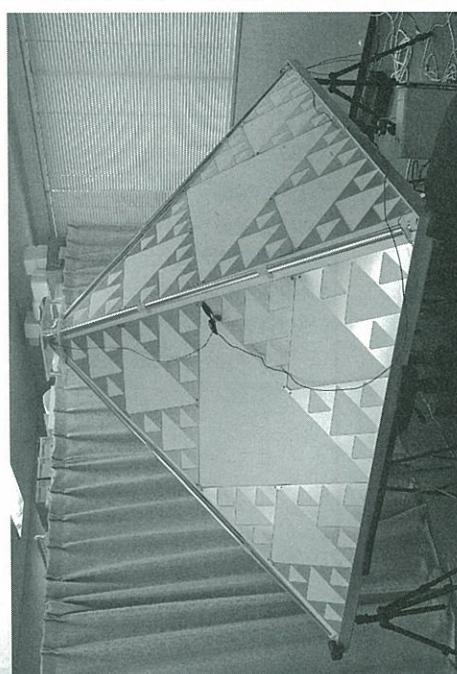
2005年に山本氏は定年を迎えて、放射線医学総合研究所を退官する。しかし、山本氏の超能力研究への熱い情熱はいたたかれて離せないことがない。

2001年にNPOとして設立していた国際総合研究機構（I.R.）に活動の場を移し、現在もなお超能力研究の最前線で、精力的に研究と推進をつづけている。

#### 科学誌に掲載された 非接触効果の実証論文

山本氏とその研究チームの長年の努力が、具体的な成果としてついに結実を迎えた。

2003年4月、一本の科学論文が国際的学術誌「International Journal of Physical Sciences」に掲載された。タイトルは「瞑想者のキュウリへの非接触効果」（Meditator's non-contact effect on cucumbers）。著者は国際総合研究機構（I.R.）情報研究センターおよびアクアヴィジョン・アカデミーの高木治、坂本政道、小久保秀之、世一秀雄、河野貴美子、山本幹





# 遺伝子生物学がわかる本

神の領域に手を出した人間の欲深き技術  
クローン、万能細胞、キメラ、生物兵器、  
遺伝子の謎を追つた人類が生み出した功罪

遺伝子工学研究俱楽部 編 B6判／264ページ 定価530円(税込)

全国の書店、一部  
パルシステム  
**発売日:**  
Gakken



お求めはお近くの書店で。書店に不処の際は、  
シヨック・学研 <http://shop.gakken.co.jp/> (携  
帯電話専用)、学研 <http://0120-92-5555> (通話料  
無料)にてご注文ください。

郵便番号3000円以上のご注文につきましては、  
郵便局へお送りください。

郵便局へお送りください。

未開封の場合はご購入ください。

支払い方法：代金引換（手数料はご負担ください）  
クレジットカード決済（携帯電話でのご注  
文では不可）



◆キウリから発生する香りガスの濃度測定。サンブルひとつずつを手作業で計測した。



◆小久保秀之氏。理学士。生物物理、超心理学、生体計測が専門で、生体センサを用いた測定法の開発を担当。IRI研究部長。

眞想実験」にも同じ手法を使おうとしたのだが、残念ながらひつだけやつかないな問題があつた。

定方式である。

切断されたキュウリからは、香りガスが放出される。バイオフオームの発光量が変化するうちに、このガスの濃度にも変化が生じるならば、それを計測すればいい。何よりやむのガス方式は、バイオフオームの計測に出でて、一度に大量のサンプルを計測でき、はあるかにスピーディー

実験材料の手配や設備に手に入るが、バイオフローへ苗床のための機械やシステムが非常に高価なものなので、一度の苗床で一台しか繰り返すのが難しかった。しかし一回の手間よりも苗床によっては24時間からの時間が必要であつた。

だが、今回の実験では大量のサンプルを計測する必要がある。このやり方では気の遠くなるものでは時間がかかるつてしまつ。研究速度をもつと早める方法はないか? こいつらのうれしき。

そこで導入されたのが、ガス測

だが、今回の実験では大量のサンプルを計測する必要がある。このやり方では気の遠くなるもつた時間がかかってしまう。研究速度をもつと早める方法は何かにいたりのうつか。  
そこで考へたされたのが、ガス測

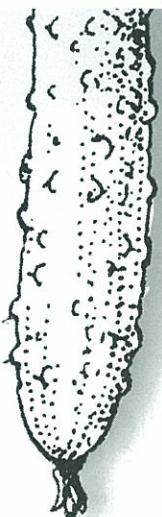
想が終わるごとには蓋を開け、  
容器のヒュミールのボアロン  
ノ酸容器の中に移されて密閉され  
36時間そのまま放置した後、ガス管  
知管を用いて、容器の中のガス濃度  
を計測する。

それを眺めり回憶り、かつたらか  
そのものれいじか女性ちゆのく、異  
漂ぬる體験りひつゆトクロード  
てらせだらう御へてらか

そして、じつはゆく次のアトリエ  
たるところの次のアトリエへ、わざわざ  
まことに実験が進められ、驚くべき結果  
を得てついでに。だが彌文として  
発表するまで、やむをかしひ時間が必要  
なので待つてはほつりのりいた。な  
にしき、今回の彌文発表についても、  
準備期間や試行錯誤の期間を入れれ  
ば、足かかって年半以上かかるかかってら  
ねじつから驚かれた。科学者たちの  
粘る腰にさう、ただ敬服するしかない

今回の翻訳文摘要は、科学が本質を示して超能力に歩み寄つた大きな歩みである。それは超能力と科学との間に隔てる深い溝を、着実に埋めようとするものである。

卷之三



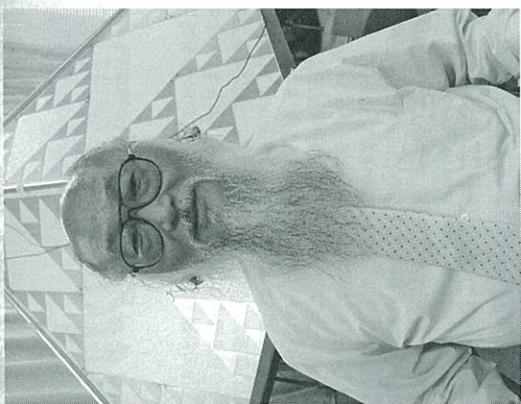
で証明した。科学的公正さを徹頭徹尾守りながら、膨大なデータを分析し、客観的にこの6つの結論を導きだした。

物語である  
未知の作用の  
正体やいかに?

今回の実験では、腰懸垂シナブルの間に、何らかの作用があるといふことが証明された。では、それはどういふうなやうなのか？

（一四一）理事長の日本銀行式である。まだ今後の筋試の方回性に亘りて、日本出でるのものに翻してから「同」の外の世界の出来事が聞かれる。

「何らかの作用の立場は何なつか



◆山本幹男氏。博士（医学）、博士（工学）。この実験の研究リーダー。物理、生体計測、潜在能力を長年にわたりて研究してきたハイオニア。IR理事長、国際生命情報科学会（ISLIS）理事長・編集委員長。元科学技術厅放射線医学総合研究所研究室長。



↑世一秀雄氏。修士（工学）。実験装置開発や実験、解析に携わる。IR技術部長・主任研究員。



↑ 河野貴美子氏。博士（工学）。  
河野貴美子氏は、生理工学観点からデータの検討を担当。IR副理事長、国際生命情報学会（ISI-S）副会長。